

Citation: Galaal K, Naik R, Bristow RE, Patel A, Bryant A, Dickinson HO. Cytoreductive surgery plus chemotherapy versus chemotherapy alone for recurrent epithelial ovarian cancer. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 6. Art. No.: CD007822. DOI: 10.1002/14651858.CD007822.pub2.
CRG名: Cochrane Gynaecological Cancer Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 10 May 2010
Clib issue No.; N/U: 2010 issue 6, New

背景: 進行上皮性卵巣癌の女性の多くは、初回手術と補助化学療法による初期治療完了後に最終的に再発することがある。二次腫瘍縮小手術は選択された患者において生存利益を延長する可能性がある。多数の化学療法薬が再発性卵巣癌に有効であるが、再発性卵巣癌の患者の標準的治療はまだよく定義されていない。

目的: 再発性上皮性卵巣癌の女性を対象に、二次腫瘍縮小手術と化学療法の併用と化学療法単独の有効性と安全性を比較・評価する。

検索戦略: Cochrane Gynaecological Cancer Group Trials Register、Cochrane Register of Controlled Trials (CENTRAL) 2009年第1号、MEDLINE、EMBASEを2009年2月まで検索した。臨床試験登録、学会会議抄録、レビュー論文の参考文献リストを検索し、当該分野の専門家に連絡を取った。

選択基準: 再発性上皮性卵巣癌の女性を対象として二次腫瘍縮小手術と化学療法の併用と化学療法単独を比較したRCT、準ランダム化試験、および非ランダム化研究を見いだすため検索した。

データ収集と分析: 3人のレビューアが独自に関連する可能性のある研究が選択基準を満たしているか否かを評価した。試験は見つからず、そのためデータ解析は行われなかった。

主な結果: 検索戦略は1431件の優れた参考文献を同定したが、すべてをタイトルと抄録に基づいて除外した。

レビューアの結論: 再発性上皮性卵巣癌の女性に対する化学療法単独と比較した二次腫瘍縮小手術と化学療法の併用についての判断を知らせるためのRCTからエビデンスを見いださなかった。これらの治療様式を比較するためには、理想的には、大規模ランダム化比較試験または少なくとも適切にデザインされ、ベースラインの不均衡について調整するため多変量解析を用いた非ランダム化研究が必要である。

(監訳 内藤 徹)
翻訳公開日: 2011年3月1日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。